

☆年間第22主日(9月3日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (エレミヤの預言 20章 7-9節)

主よ、あなたがわたしを惑わしわたしは惑わされて
あなたに捕らえられました。
あなたの勝ちです。
わたしは一日中、笑い者にされ人が皆、わたしを嘲ります。
わたしが語ろうとすれば、それは嘆きとなり
「不法だ、暴力だ」と叫ばずにはられません。
主の言葉のゆえに、わたしは一日中恥とそしりを受けねばなりません。
主の名を口にすまい もうその名によって語るまい、と思っても
主の言葉は、わたしの心の中、骨の中に閉じ込められて
火のように燃え上がります。
押さえつけておこうとしてわたしは疲れ果てました。
わたしの負けです。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 12章 1-2節)

兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に
喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたの
なすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、
心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善い
ことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

福音朗読 (マタイによる福音書 16章 21-27節)

そのとき、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、
律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっ
ている、と弟子たちに打ち明け始められた。すると、ペトロはイエスを
わきへお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんな

ことがあってはなりません。」イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

9月に入りました。暑さももう少しで涼しさに変わることを希望します。コロナに感染する人が少し増えているようです。自己対応をお願いします。さて、今日の日曜日は世界中で「被造物を大切に作る世界祈願日」になっています。この日には世界中のクリスチャンがそろって「私たち人間に託された全被造界のケアを再確認する日」となっています。また日本では9月1日から10月4日(アジジの聖フランシスコ記念日)までを「すべての命を守る月間に指定されています。私たちの生活スタイルの見直し(欲望からの脱却)が神さまから求められているということなのです。最近の猛暑もある意味で神さまからのメッセージではないでしょうか。この一か月間と言わず生活スタイルを見直してみませんか。

第一朗読 (エレミヤの預言 20章7-9節)

神から主の預言者として召されたエレミヤの苦悩が伝わってきます。「あなたの勝ちです」「私の負けです」という言葉が印象的です。自分に与えられた使命「主の言葉を告げる」のために様々な苦しみに出会うエレミヤ、崇高な使命だけに苦しみ、辱めも多いのです。なんでこんなに苦しまなければならないのか、自分の骨の中に閉じ込めてある主の言葉がそうさせ、火のように燃え上がっているのです。エレミヤは「不法だ、暴力だ」と心の中で

叫びながらも、主の言葉を伝え続けるのです。その姿はやがて来られる救い主の姿でもあったのです。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 12章 1-2節）

パウロは信徒の皆さんに勧めます。神に捧げる生贄についてです。旧約時代は動物の肉などを神への生贄として捧げていました。しかし神に喜ばれる生贄は私たちの生き方を改めることなのだと言われ、パウロは勧められています。それは体を痛める苦行みたいな内向きの生き方ではなく、隣人愛に生きること、つまり自分から外に出ていく、自分中心の生き方から神が私に何を求めておられるかを求めて実践していくことだということです。イエスは自分のことを求めておられませんでした。徹底して神のみ旨、つまり隣人愛を実行されて行かれたのです。今世界に求められていることは何でしょうか。それはこの地球は人間だけが生活し生きているのではないと知ることではないでしょうか。神から創造されたあらゆる生き物が生きる世界なのです。それを大切にすることは神のみ旨であり、また自分に返ってくる恵みであるのです。

福音朗読（マタイによる福音書 16章 21-27節）

「自分の十字架を背負って私に従いなさい」とイエスは私たちに求めておられます。イエスは自ら進んで自分の死刑の道具である木の重たい十字架を背負って、引きずってカルワリオの丘を登って行かれました。イエスの犯罪者のような死に方を告げられたペトロは猛反対します。これに対しイエスはペトロを激しく叱ります。「あなたは私を邪魔する者、神のことを思わず。人間のことを思っている」と。私たちが回心しなければならないことは私の思いを神の思いに近づけ一致させることです。それが自分の十字架を背負ってイエスに従うことです。イエスは私たちの目の前を自ら進んで十字架を背負って歩かれています。イエスがまず実行されているのです。



尾瀬沼・大江湿原のヤナギラン（2022年7月）

P.S.

屋上テラスの防水工事と聖堂内の天井の補修が終わりました。ありがとうございました。「日々の祈り」の意向を掲示しましたのでご利用ください。たくさんの方の祈りへの参加を希望しています。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光